

〔問題1〕

人間の生活の中枢をなしているもの、なしてきたものは、記憶ですとありますが、筆者は、人間の「記憶」をどのようにとらえ、その「記憶」によって人間は何を得てきたと述べていますか。七五字以上一〇〇字以内で説明しなさい。なお、ゝや。や「なども、それぞれ字数に数えます。

人間の記憶は、単に「覚えている」ということではなく、自分で時間をかけてつくりあげるものであり、それによって自分が育てられ、自らが大切なものを手にしてきたのである。(八十一字)

〔問題2〕

人間が自ら記憶力を手放してしまっているような危うさを感じますと筆者は述べていますが、筆者がそのように感じている理由を、七五字以上一〇〇字以内で説明しなさい。なお、ゝや。や「なども、それぞれ字数に数えます。

自らが時間をかけてつくりあげてゆくという過程を省くことで、人の考える力、感じる力といった自分を確かにしてゆく大切なものを手にす

ることができなくなるから。(七十六字)

〔問題3〕

自分の記憶をよく耕すこと。その記憶の庭にそだってゆくものが、人生とよばれるものなのだと思うという筆者の考えをふまえて、あなたは自分の記憶をこれからどのように耕し、そだててゆこうと思いますか。具体例を示しながら述べなさい。ただし、次の「決まり」にしたがって、四五〇字以上五〇〇字以内で書きなさい。

- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。

○ ゝや。や「なども、それぞれ字数に数えます。

私の故郷は海の近くだ。夏になると毎日のように海に泳ぎに行っていた。そしてこれも毎年のことであるが、真っ黒に日焼けしたために背中
の皮がむけてヒリヒリする経験もよくしていた。泳ぎ終わったあと、海
水を洗い流すために、冷たい水道水を友達とかけあって、心臓が止まり

そうなくらい冷たい水に悲鳴をあげたりしていた。海で泳ぐには保護者がかならず監督かんとくをしなければならず、いつも二人組の親が日傘ひがさをさして、見守りをしてくれていた。小さい子供たちは浅瀬あさせで浮き輪をつけて遊んでいた。その光景を思い出すととても懐なつかしくなる。

このような夏の思い出の一ページは当たり前前だと思っていたが、東北の大震災だいしんさいでの埋め立てや沖縄の基地で故郷の海が壊こわされていくこともあると考えると、このような思い出があることを感謝しないといけないなあと思う。そして子供が安全に遊ぶために地域の人や親がいつも見守ってくれていたことも忘れてはいけないと思う。私も将来自分が大人になった時、子供の頃ころ、時間を忘れて楽しく過ごせたことを思い出して、それを支えていく大人になれたらと思う。(四五七字)